

経営比較分析表（令和4年度決算）

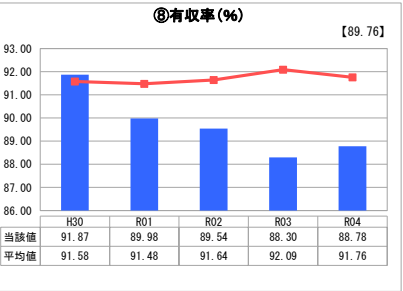
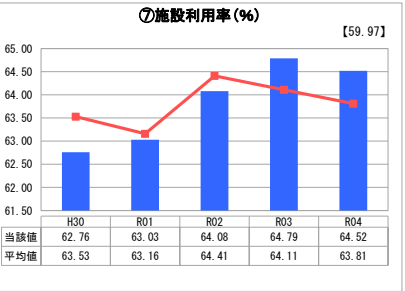
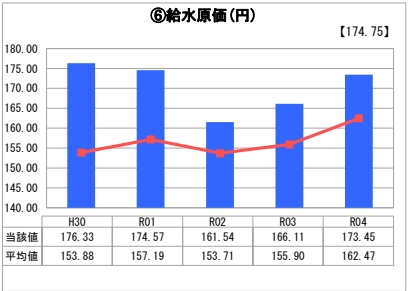
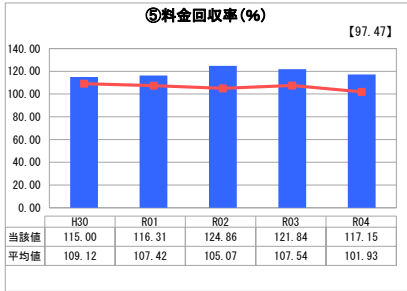
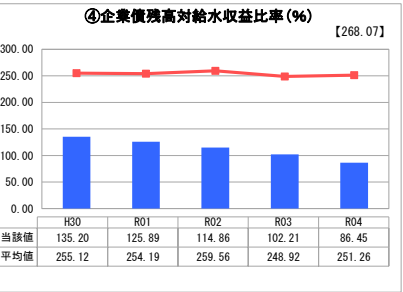
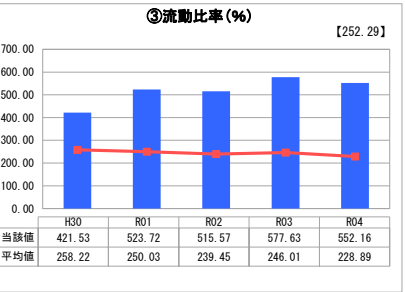
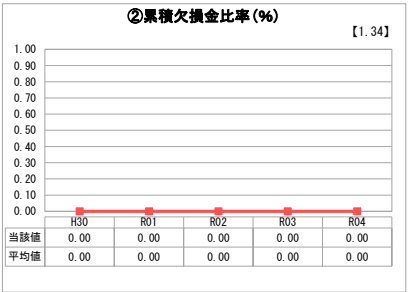
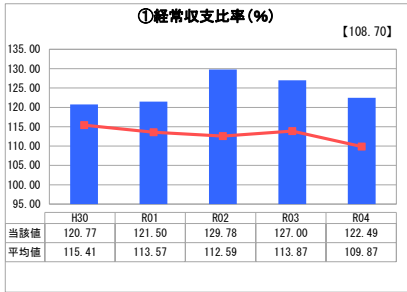
福島県 郡山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	88.43	98.60	3,212	

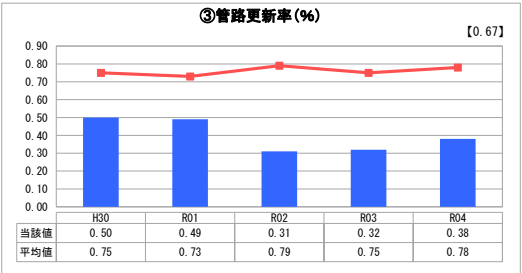
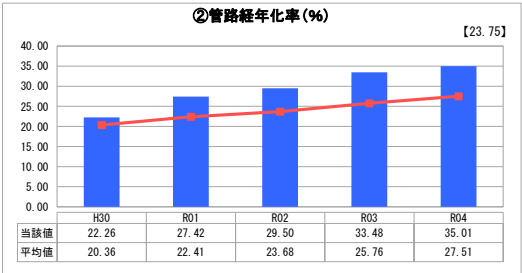
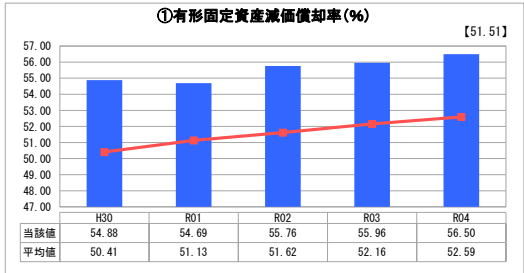
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
317,486	757.20	419.29
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
311,945	293.28	1,063.64

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率、②累積欠損金比率
前年度と比べ経常収益は横ばいであったが、経常費用が増加したため、経常収支比率は減少した。類似団体と比べ良好な水準にある。

③流動比率
流動資産は微減したが、流動負債は微増したため、流動比率は減少した。類似団体と比べ高く、良好な水準にある。

④企業債残高対給水収益比率
新たな企業債借入れをせず、順調に償還を行い減少傾向にあり、類似団体と比べ低く、良好な水準にある。

⑤料金回収率
前年と比べ経常費用が増加したため、給水原価が増加し料金回収率は減少した。類似団体と比べ良好な水準にある。

⑥給水原価
経常費用が増加したため給水原価は増加し、前年同様類似団体を上回っている。これは給水区域が広く地形の起伏が多いことから、より多くの給水コストを要するためと考えられ、ダウンサイジングを含め経営改善に努めていく必要がある。

⑦施設利用率⑧有収率
施設利用率は、配水量が横ばいであり、前年度と同水準にある。類似団体より高い水準で推移している。有収率は有収水量・総配水量ともに横ばいで、前年度と同水準である。類似団体と比べ低い傾向にあり、有収率向上に努める必要がある。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
償却費の増加割合が更新費の増加割合を上回るため、償却率は微増した。類似団体と比べ高い水準にある。

②管路経年化率
昭和40年代から昭和50年代に整備した多くの管路が法定年数を超えるため、今後も上昇傾向にある。類似団体と比べても、高い水準にある。

③管路更新率
基幹管路を優先的に更新しているため管路更新延長が伸びず、類似団体と比べ低い水準にある。
耐用年数だけではなく、A1を活用し、真に老朽化した管渠を見極め、効率的に更新を行うことが重要である。

全体総括

現在の経営状況については、概ね健全な状況にあると考えられる。今後は、人口減少・世帯構成の変化などの社会動態の変動や、節水型社会への移行による水需要の減少が予想される中、施設の老朽化の進行に伴い、施設の更新需要が増大していく。
このことから、今後もアセットマネジメント手法による長寿命化、事業の平準化及び予防保全型維持管理による維持管理費用の縮減を図りながら、将来の水需要に見合った施設の統廃合（ダウンサイジング）や性能の合理化（スベックダウン）等により、効率的・効果的な更新・修繕を計画的に推進するなどの経営に努め、健全性を確保していく必要がある。